

## あ い さ つ

京都府高等学校体育連盟

会 長 村 上 昌 司

(京都府立西城陽高等学校長)

令和5年度 京都府高等学校体育連盟「高体連誌第63号」の発刊にあたり、ごあいさつ申し上げます。

令和5年5月8日に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが5類に移行されたことを受け、4年振りに通常の形で開催できた京都府高等学校総合体育大会をはじめ、本連盟の各種事業をコロナ禍以前の形で実施することができました。

3年以上に及ぶコロナ禍の期間、加盟校・各専門部、並びに各競技団体をはじめ関係諸機関の皆様方には、感染拡大防止策をはじめ安心安全な大会の運営に、一方ならぬ御尽力を賜りましたことに誌面をおかりして心から感謝申し上げます。

さて、通常通りの開催となりました夏季の全国高校総体をはじめ全国定時制通信制大会やその他の全国大会では、日々たゆまぬ努力を重ねてきた選手たちが、京都府の代表選手として大活躍をしてくれました。団体では、鳥羽高校水泳（水球）部（男子）、京都精華学園高校バスケットボール部（女子）、華頂女子高校空手道部（女子）の優勝を含む27の入賞、また個人では陸上競技、体操（新体操）、レスリング、自転車競技、ウエイトリフティング、フェンシング、空手道、なぎなたから26種目の優勝を含む108の入賞を果たすなど、連日熱戦を繰り広げ、例年以上の活躍を見せてくれました。さらに、冬季の全国高校総体である駅伝やラグビー、スケート、スキーをはじめ、年末年始に開催された全国高等学校選抜大会等においても、京都精華学園バスケットボール部（女子）がウインターカップで優勝（夏冬2冠、夏冬2連覇）するなど、本連盟加盟校の生徒達の活躍を大いに実感できた1年となりました。

改めまして、競技力向上に向けて御尽力いただきました各競技専門部や各顧問の先生方の御指導と情熱に対し、深く感謝申し上げます

現在、中学校では「学校部活動」から「地域クラブ活動」への段階的な移行が進められています。また、高等学校の運動部活動においても、学校における働き方改革や生徒数の減少、体罰、事故防止などの課題解決に向けて大きな転換期を迎えています。本連盟といたしましても、引き続き学校教育の一環として行われる運動部活動を通して、一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、個性を磨き創造性を伸ばし、本府の高校生が安心安全で充実したスポーツライフを送れるように、加盟校、各競技専門部や各顧問の先生方のお力添えをいただきながら、関係者一同、力を合わせて取り組んでまいり所存です。

結びにあたりまして、各団体、関係機関の皆様方には、今後とも本連盟への温かい御支援と御協力を賜りますことをお願い申し上げます、発刊のごあいさつとさせていただきます。